



志木二中だより

「勇気」 前に向かう強い心をもつ生徒

「信頼」 静かに考え他を認め励ます生徒

令和4年度11月号
令和4年10月31日(月)
志木市立志木第二中学校
志木市館 1-3-1
TEL:048-473-2379

二中学生を巡るノンフィクションの熱い秋

校長 三杉 紀文

空気が冷たくなるにつれ、ポカポカとした日だまりの暖かさをありがたく感じるようになりました。朝晩は特に冷え込むようになりましたので、体調には十分気を付けて過ごしたいものです。

さて、開始日から考えるともう1ヶ月が経とうとしていますが、10月の第1週に運動部の朝霞地区新人体育大会兼県民総合スポーツ大会、また美術部のあさか美術部合同作品展がありました。美術部合同作品展での志木二中の作品は、他校より全体としてサイズが大きいものが多く、入学して半年の1年生も含めて油絵の作品（制作3ヶ月以上）を出品して一際訪問者の目をひいていました。

一方、朝霞地区新人体育大会兼県民総合スポーツ大会は、3年生から2年生、1年生に代替わりしての初めての公式戦で、当日は緊張の面持ちの生徒たちも少なくありませんでした。そんな中、胸が熱くなる試合がいくつもありました。

男子テニス部、女子テニス部は、中学校入学以来の地道な練習の成果を発揮。男子団体は、1試合目は落としたものの、そこから見事に切り替えて2試合目、3試合目を連勝。女子団体は、連勝で臨んだ3試合目、ファイナルゲームまでもつれ込む激闘の末の勝利。自分の1球でチームの勝負が決まる緊迫の場面でも、下を向かずに強い気持ちで戦い抜いた姿がとても印象的でした。結果として、男女ともに団体戦で予選リーグを勝ち抜き、決勝トーナメント進出を果たしました。

バドミントン部は、男女がそれぞれ複数のコートでしかも同時に進行するため、応援も分散し、顧問もあちこちのコートを走り回ることになる厳しい条件の中、粘り強くそれぞれに力を発揮しました。男女とも個人戦に加えて団体戦で県大会出場は本当に快挙です。

野球部の戦いは、最長の9日間に及びました。準決勝は4回終了時に6-6で雨天中断。その継続試合は、会場まで行ったものの、雨天のために再順延となり、雨の中を自転車で帰ってくることが2日間連続しました。それでも準決勝を制して迎えた決勝戦。序盤で0-7と失点したものの、6回までに6-7と1点差まで詰め寄る猛追。逆転には及びませんでした。リードされていても声を出し続け、最後まであきらめない姿勢にグッときました。

そうしたドラマの裏で、激戦及ばず敗退となった部の顧問からは「今晚は悔しくて眠れないな。」というつぶやきも聞こえました。顧問たちも練習の成果を目に見える形で生徒たちに見せてあげたいといった強い思い入れがあります。また、たとえば野球部では朝6時台からの準備に合わせて8日間お弁当を用意していただきました。会場まで駆けつけて応援してくださった保護者、地域の皆様など、生徒たちを支える応援団の存在は大きかったです。改めて感謝申し上げます。